

## 富士登山記録

2024.8.31

- ・日時 2024年8月25(日),26(月) 小田急線 新松田駅 7:40 集合、JR 御殿場駅 12:35 解散
- ・参加者 花田さん、藤沢さん、室岡 計3名
- ・準備 宿泊申込み 江戸屋 HP に6/25 11:00 に申込み(2食付 1,1000円)  
富士登山事前登録 7/23 に”KKday”に申込み、返信の添付ファイルにQRコード
- ・タイム 8/25 新松田駅 7:50→須走口 9:30/50→6合目長田山荘 11:20/40(お昼)→本6合目瀬戸館 12:20/30→本7合目太陽館 14:20/30→本8合目胸突江戸屋 15:00 実動約5時間  
8/26 胸突江戸屋 3:30→休憩(日出)4:40/50→久須志神社 5:10/15→測候所下 6:20/30→浅間神社 7:00/10→赤岩8合館 8:00/10→7号5.勺砂走館 8:25/30→宝永山 9:10/15→(大砂走)→二郎坊 10:00/10→大石小屋 10:50/11:30→御殿場口新5合目 10:45/55→御殿場駅 12:35 実動約6時間
- ・概要 8/25 新松田駅前バス停に7:40ni 待人は我々のみ。バスは乗客15人で定刻通りに出発した。須走口は気温23℃晴れ。新設されたインフォメーションセンター横の菊屋の椅子で装備等を整え、入山許可(富士登山事前登録)のQRを見せてリストバンドをもらい、少し行って通行料(富士山保全協力金)1,000円を支払い記念品の木札とステッカーをもらった。

穴だらけの黒い溶岩の上、シラビソなどの針葉樹が立ち並ぶ樹林帯を過ぎ、ダケカンバと榛の木の明るい樹林に変わる頃に6合目長田山荘に着き、お昼とした。正午頃になっても頂上が霧間から時々見え、日が差すこともあまりない絶好の登山環境だった。その後、本6合目瀬戸館の辺りから森林限界を越え、オンタデなどが点々と生える斜面を見て溶岩の上の道を登った。7合目太陽館、本7合目見晴館で小休止し、8合目江戸屋を過ぎてから15分ほどで本8合目胸突江戸屋に着いた。

しばらく外で眺望を楽しんだ後、中に入って説明を受けた。曰く、靴は袋に入れて自己管理、今日は混雑しており夕食は到着順に16:30から、トイレは100円、歯磨きは外で、消灯は20時など。その後、寝袋1枚の広さの寝場所に案内され、ヘッドランプなどを準備し、カレーの夕食後は一旦外に出て夕暮れまで時を過ごしたが、することもなく寝袋に入って眠りについた。

8/26 暑い寝袋で寝不足の中2時半頃に御来光組の起床案内があり、大部分の人が出て行った。我々は予定通り3時半に起床し、6畳ほどの広間で朝食の弁当を食べて出発した。よく晴れて暗い空に星、下方に山中湖周辺の灯が瞬いていた。暗い登山道を他の登山者に抜かれまた抜きながら登り、4:20頃に渋滞の最後尾につき、のろのろと登るうちに御来光を迎え、すべての登山者が立ち止まって写真撮影となった。10分ほどたって皆歩き始め、5時過ぎに頂上の鳥居を潜った。混み合う久須志神社に参拝した後、お鉢回りのガレ道をたどって剣ヶ峰に向かった。途中大沢崩れの上で雲海の上に浮かぶ影富士に出会った。この日もよく晴れ、西に清水港、富士市、駿河湾、南に天城山、南東に相模湾、三浦半島が見えた。剣ヶ峰は長い待ち行列ができていたので道の脇で写真を撮って済ませ、浅間神社奥社まで下って小休止した。神社前からは富士宮ルートが麓まで見通せ、富士吉田ルートよりも登山・下山者が少ないことが見て取れた。御殿場ルートの下山口は神社から少し下ったところにあり、こちらも麓まで見通すことができた。

御殿場ルートは溶岩が表に現れない「砂山」の斜面で、小石のザレ道を、ジグザグを繰り返して下った。約50分後に赤岩8号館、その15分後に宝永火口の上部の7号5.勺砂走館に着いた。バス出発時刻までの余裕ができたので宝永山に回ることにし、馬の背への道をたどり40分後に宝永山頂上に着いた。宝永山から15分ほど引き返し、水平距離13km 垂直約1,000mの長く単調な大砂走りを、「二郎坊」で休みを入れ大石小屋まで下った。大石小屋で服装を整え昼食をとった後10分程下ってバス停に着き、更に10分程待ってバスに乗り込み御殿場駅に到着して解散した。



8合目



7合目



6合目



記念品



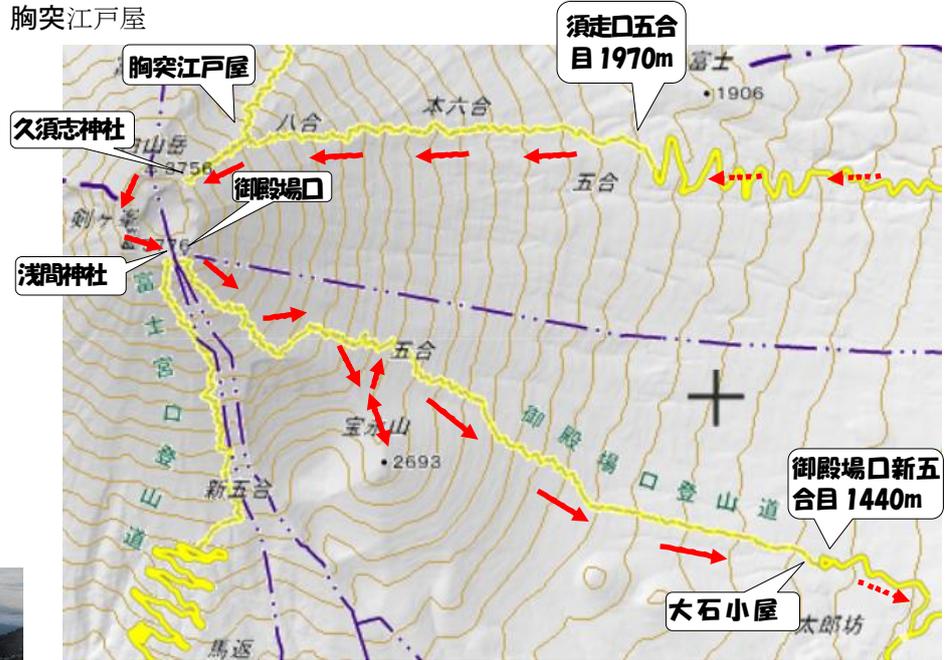
須走口5合目



胸突江戸屋



影富士



剣ヶ峰



馬の背



宝永山



大砂走り



富士山



シラビソ



トモエシオガマ



ミヤマオトコヨモギ



ベニイタドリ(オンタデ)



フジアザミ